令和４(2022)年度

事　業　報　告　書

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

一般財団法人　日本サイクルスポーツセンター

概　　要

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の受入れによる約３年間の休業期間を経て、令和４年３月 18 日に営業再開を果たした本センターであるが、コロナ禍でのオープンとなり、厳しいスタートを余儀なくされた。有料入場者は、年度当初こそオリンピック・パラリンピックレガシーや３年振りの営業といった話題性も手伝って、目標人数を上回ったものの、以降は、夏場に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症第７波の影響、電気代・ガソリン代を始めとする物価の高騰、豪雨・猛暑といった異常気象などの外的要因に、老朽化した流水プールの廃止、集客イベントの開催自粛、長期休業に伴う団体客や大会・合宿離れ等の要因も加わり、オープン以来初めて 10 万人を下回る結果となってしまった。

一方、オリンピック・パラリンピックレガシーの活用に関しては、地元行政やスポーツコミッションとも連携し、会場となった伊豆ベロドロームと伊豆ＭＴＢコースを使用した自転車競技大会及びイベントを開催し、自転車競技の振興を図るとともに、サイクルスポーツの聖地実現に向けた取組みを行った。

本年度に実施した主な事業は、次のとおりである。

○ 新型コロナウイルスの感染防止に配慮した運営
○ 顧客の呼び戻し（営業休止前の入場者数を確保）
○ オリンピック・パラリンピックレガシーの活用（自主大会の開催、地元行政と連携した自転車競技の振興ほか）

なお、一部事業の実施に際し、公益財団法人 JKA から公益事業振興資金（自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する事業、東京五輪・パラリンピック大会後のレガシーや実施予定施設等を活用した地域振興やスポーツ振興に資する事業、自転車安全利用等人にやさしい健康で安全な社会づくりの推進・交通マナーや正しい乗り方などを啓発する事業）及び機械振興資金（自転車競技の競技運営力向上に資する装置・機器に関する調査研究事業）の補助を受けた。

１．入場者及び施設利用者

令和４年度の入場者（一般有料入場者）については、年間目標人数を 12 万人としたものの、様々なマイナス要因が重なって、最終的には 10 万人をも割り込み、99,678 人に終わった。

四半期別にみると、第１四半期は、目標 34,000 人に対し、実績 36,604 人（2,604 人の増、達成率 107.7%）― オリンピック・パラリンピックレガシー並びに３年振りに営業再開した話題性。第２四半期は、目標 37,000 人に対し、実績 20,571 人（16,429 人の減、達成率 55.6%）― 新型コロナウイルス感染症第７波の襲来、猛暑、祝日「山の日」から旧盆序盤にかけての雨、シルバーウイーク前半の雨及び後半の台風襲来、流水プールの廃止、集客イベントの自粛、大会・合宿離れ。第３四半期は、目標 22,000 人に対し、実績

20,553 人（1,447 人の減、達成率 93.4%）― 10 月・11 月の日曜日及び祝日の雨。第 4 四半期は、目標 27,000 人に対し、実績 21,950 人（5,050 人の減、達成率 81.3%）― お別れ遠足の減少、集客イベントを計画していた 3 月最終土曜日及び日曜日の雨。

施設利用者については、「とくパス」購入比率の上昇も手伝って、入場者一人当たりの施設利用回数が、平成 30 年度の 6.0 施設／人から 6.8 施設／人へと増加した。

施設別では、サイクルコースター、おもしろ自転車、スカイローラーの人気が高く、新規に導入したサイクル立体迷路も、それらに次ぐ利用者数であった。一方、「とくパス」の利用対象から外した 5 キロサーキットの利用率は減少、伊豆 MTB コースは微増に止まった。

なお、詳細は（別表 1－1）月別入場者、（別表 1－2）入場者内訳、（別表 1－3）施設利用者内訳のとおりである。

２．サイクルスポーツ施設の運営等に関する事業

（１）サイクルスポーツ施設の運営

5 キロサーキット、伊豆 MTB コース及び伊豆ベロドローム等の自転車競技施設を広く一般に提供し、サイクルスポーツの普及に努めた。

また、伊豆ベロドロームについては、自転車競技大会やクラブチーム等の合宿受入れのほか、年間を通じてナショナルチームの強化トレーニングの場として提供し、施設の有効活用を図った。

一方、伊豆 MTB コースについては、全長 4.1 ㎞のオリンピックコースのうち比較的に平坦な約 1.1ｋｍを一般利用者に提供するとともに、自転車持込みで利用するマウンテンバイク愛好者には、オリンピックでテクニカル・フィーチャーとして使用した「天城越え」エリアも開放し、オリンピックコースの醍醐味を体験する機会を提供した。

なお、伊豆ベロドローム屋根部の漏水対策については、設計・施工業者である清水建設株式会社による徹底した調査と補修整備が行われ、工事完了後、新たに 10 年間の保証も取り付けた。

（２）屋内スポーツ施設の運営

室内フットサル場及びウエイトトレーニング場等の屋内スポーツ施設については、地域スポーツの場として、また、学校団体等のスポーツ合宿の場として提供した。

（３）野外活動施設の運営

飯盒炊飯による集団共同作業や自然体験活動の場として提供している DAY キャンプ場については、新型コロナウイルス感染症に配慮し、受入れ人数を縮小するなどして運営した。

（４）合宿所サイテルの運営

オリンピック・パラリンピックの際には競技ボランティアの宿泊場所として使用された合宿所サイテルについては、Wi-Fi 環境を整備し、ロビーでの無料 Wi-Fi を提供する

など、宿泊者の利便性の向上を図り、自転車競技を始めとする各種スポーツ合宿者をメインターゲットとして営業したものの、新型コロナウイルス感染症により宿泊を伴う合宿を自粛する団体が相次いだことや、一部屋の宿泊人数を抑えるなどしたため、目標人数 9 千人の約半分まで落ち込む結果となった。

（5）その他の事業

自転車競技施設及びトレーニング施設の貸与、各種自転車及び関連機材の貸出しのほか、場内においても、静岡県から譲渡されたオリンピック・パラリンピックのキャラクター「ソメイティ＆ミライトワ」の展示や、レガシー銘板の設置、メダルやトーチの披露を行うなど、内容を充実させ自転車競技の普及に努めた。

3．自転車競技及びサイクルスポーツ等を普及促進する事業

（1）アジアサイクリングセンターの運営

ア．国内トレーニングキャンプ

UCI 国際自転車競技連合支援事業として、アジア各国から将来を期待されるトラック競技者及び指導者を募り、CCC 修善寺で 2 週間に亘る訓練研修を 2 回計画した。新型コロナウイルスの影響により、1 回目については、日本国内の中高生をターゲットにした短期間のキャンプとなったものの、2 回目については、入国の規制緩和を受け、3 年ぶりに海外選手を迎え入れることができた。

本年度における開催は、次のとおりである。

［第 1 回国内トレーニングキャンプ］

開催期間：令和 4 年 8 月 19 日～令和 4 年 8 月 24 日

参 加 者：日本　　10 名（選手 9 名、コーチ 1 名）

［第 2 回国内トレーニングキャンプ］

開催期間：令和 4 年 11 月 15 日～令和 4 年 11 月 28 日

参 加 者：3 ヵ国 ―9 名（選手 7 名、コーチ 2 名）

香港チャイナ　　1 名（選手 1 名）

日本　　6 名（選手 4 名、コーチ 2 名）

タイ王国　　2 名（選手 2 名）

イ．トラックサイクリングキャンプへの協力

公益財団法人 JKA が主催する「トラックサイクリングキャンプ」に指導協力を行った。

協力内容は、次のとおりである。

［トラックサイクリングキャンプ 2022 in 立川］

開催期間：令和 4 年 9 月 17 日～令和 4 年 9 月 18 日

開催場所：立川競輪場

参 加 者：9 名
指導スタッフ：2 名
［トラックサイクリングキャンプ in SPRING］
開催期間：令和 5 年 3 月 24 日～令和 5 年 3 月 26 日
開催場所：400 メートルピスト及び伊豆ベロドローム
指導対象：C グループ 17 名
指導スタッフ：2 名

（2）自転車競技大会及び合宿の開催と受入れ

ア．自転車競技大会

5 キロサーキット及び伊豆ベロドロームを活用し、5 時間耐久チームサイクルロードレース大会やトラック自転車競技大会等の自転車競技大会を企画・開催した。

また、国際大会である「2022 ジャパン・トラック・カップⅠ・Ⅱ」「2022 ジャパン・マウンテンバイク・カップ in 伊豆 MTB コース」を始め、他団体が主催する様々な自転車競技大会を招致し、その開催にも協力した。

［主催大会］
開催件数：13 件
参 加 者：834 名
［他団体の大会］
開催件数：19 件
参 加 者：2,980 名

なお、詳細は（別表 2）自転車競技大会一覧のとおりである。

イ．自転車競技合宿

ナショナルチームを始め、大学や高等学校の自転車競技部、各種自転車競技団体等、延べ 132 件 1,125 名の自転車競技者を誘致し、トレーニングの場として伊豆ベロドロームなどの自転車競技施設を提供した。

（3）伊豆サイクルスポーツクラブの運営

本センターの施設・設備とスタッフを活用して、伊豆サイクルスポーツクラブの運営を行った。本年度は、毎月 3 回 400 メートルピストを主の練習場とし、凍結の心配のある 1 月～2 月については、伊豆ベロドロームを開放し練習を行った。

同クラブは、性別、年齢、目的及び自転車競技経験の有無を問わず、トップ競技者を目指す者のほか、キッズクラスからマスターズ世代に至るまで幅広い層を対象にするもので、特に小中学生等若い世代の会員に対しては、自転車の基本的な乗車スキルを指導している。当クラブからは、ワールドカップでのメダリストも輩出された。

・実施期間：令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月
・実施回数：35 回（雨天中止 1 回）

（4）自転車スクールの開催

自転車愛好者の底辺拡大を図るため、自転車に乗れない女性を対象にした1泊2日の乗り方教室を5回、小学生を対象にした日帰りの乗り方教室を4回開催した。

また、オリンピック用に設計された世界屈指のコースである、伊豆MTBコースを使用し、競技の魅力を体感してもらい、競技者の底辺拡大とタレントの発掘を図るため、小中学生を対象に2泊3日のMTBヤングキャンプを開催した。なお、本キャンプにはオリンピアンを招聘し、スポーツを通じた人間形成への一助を目的とした「オリンピズム」に関する講話を参加者及び保護者に向けて実施した。

なお、詳細は（別表3）自転車スクール及び競技指導内容一覧のとおりである。

（5）自転車普及イベントの開催

年齢・性別を問わず楽しめ、特に子供たちに人気の高い一輪車のイベントを3年ぶりに開催して自転車愛好者の底辺拡大及びサイクルスポーツの普及に努めた。

・3時間耐久一輪車レース大会（7月）
・新春静岡県一輪車競技大会（1月）
・静岡オープン一輪車駅伝（2月）

なお、詳細は（別表4）イベント開催内容一覧のとおりである。

（6）自転車競技の地域普及啓発活動

静岡県立伊豆総合高等学校の体育科目選択授業の場として、伊豆ベロドローム並びに400メートルピストを提供し、トラック競技の技術指導を行ったほか、トップアスリートの育成を目的に三島市が主催する「みしまジュニアスポーツアカデミー事業」に関しては、第7期生（令和4年4月）及び第8期生（令和5年3月～4月）に対する自転車競技の指導業務を受託した。

また、公益財団法人JKAより助成を受け、「競技用自転車を利用した他スポーツ実施者へのクロストレーニング」を推進し、スケート（ショートトラック）選手やトライアスロン選手に対し、伊豆ベロドローム等の施設でトラックバイクによるトレーニングを実施した。

このほか、伊豆市が主催する「伊豆ベロドローム施設見学及び試乗体験会」、「伊豆MTB コースウォーク及び試乗体験会」、「ランニングバイク出前教室」を業務受託し、指導協力を行うとともに、自転車競技と触れ合う機会を通じて、伊豆地域における自転車競技の普及啓発に努めた。

なお、詳細は（別表5）自転車競技体験プログラム一覧のとおりである。

（7）自転車と健康プログラムの実施

地元行政とも連携を図り、トップアスリートもトレーニングで活用しているワットバイクの機能を利用して、推定最大酸素摂取量（VO2Max）をプログラム実施前後に測定し、その推移を検証することで、自転車のペダリング動作にどのような健康効果がある

かを実証研究した。参加者には2カ月間のワットバイクプログラムを提供するとともに、ロードバイクやマウンテンバイクの体験講座、運動相談も取り入れて実施した。

その結果、参加者の多くに数値の向上が認められ、健康寿命の延伸に有効である可能性が極めて高いと判断でき、自転車が健康につながる非常に優れた機材であることが確認された。

（8）ナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点の機能強化

オリンピック･パラリンピック両競技におけるNTC自転車競技強化拠点施設として、スポーツ庁との委託契約に基づき、ナショナルチームの強化やジュニア競技者の計画的な育成を行うための施設の専有利用及びトレーニング施設の競技環境の向上並びに情報ネットワークの構築等、競技力向上のための各種サポートや機能強化事業を行った。なお、本事業の実施にあたっては、スポーツ庁からの指導に基づき、医科学の協力及び地域振興の観点から、JKA（日本競輪選手養成所）や地元行政の静岡県、伊豆市ともコンソーシアムを形成して対応した。

なお、オリンピック競技のナショナルチームにおいては、2 月から 3 月に行われた2023 UCI トラックネイションズカップで金メダル4個、銀メダル1個、銅メダルを4個獲得するなど、トレーニングの成果が証明されている。

4．サイクルスポーツに必要な自転車等に関する研究

（1）自転車の安全走行に関する調査研究

本年度は、下り坂での速度抑制を喚起する安全走行に関する研究として、5キロサーキットの下り坂部に電光掲示板を試験的に設置し、利用者に注意喚起を促した結果、過去の同時期と比較して、転倒事故の減少がみられ、一定の効果が得られた。

（2）自転車競技の競技運営力向上に資する装置・機器に関する調査研究

令和元年度に実施した調査研究を基に、伊豆ベロドロームにおけるビデオ判定支援装置の改善に関する調査研究事業として、全体俯瞰撮影が可能なカメラと複数カメラによる全周詳細撮影により、各種レース時にトラック全体で選手の動きとゼッケンが確認できるシステムの構築を行った。旧システムでは2台のビデオカメラで俯瞰撮影しており、つなぎ目の処理が不十分であったが、本年度は1台の高解像度カメラに魚眼レンズを取り付け、撮影を行うことでつなぎ目部分は解消し、選手の動きが途切れることなく観察できるようになった。また、複数カメラによる全周詳細カメラでの記録映像では、コース全周における走行選手のゼッケンが識別でき、違反者等の特定を素早く行うことが可能となった。

5．サイクルスポーツ施設に付帯する施設等の運営に関する事業

（1）各種施設の提供

“安全性の確保”と“満足度の向上”を念頭に置き、ファミリーサーキット、おもし

ろ自転車及びサイクルモノレール等の自転車関連施設並びにサイクルコースター、スカイローラー、サイクル立体迷路を始めとする遊戯的施設を一般へ提供した。

また、流水プールの跡地に「水遊び広場」を開設し、簡易プール・スライダープール床噴水等を提供するとともに、バブルマシンによる泡噴射イベントなども開催し、夏場における誘客の一助としたほか、人力で動かす省エネスポーツアトラクション「サイクルスインガー」の導入準備を進め、令和5年4月からの本格稼働に向けて、春休み期間中盤からプレ営業を開始した。

なお、運営に際しては、新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限配慮するよう努めた。

・入場時の体温チェック
・屋内でのマスク着用
・各アトラクションにアルコール消毒液の設置
・定期的に場内アナウンスにて注意喚起

このほか、暑さ対策として、簡易休憩所の増設、ミスト設備の設置、日傘の無料レンタル等のサービスを行った。

（2）集客イベントの開催

年度当初は、新型コロナウイルスの感染防止を図るため集客イベントの開催を自粛したが、8月の旧盆期間には、営業時間の延長と併せて、来場者参加型の花火大会を実施した。また、秋の行楽シーズン及び春休み期間には人気の高いお笑いライブ、正月にはお餅まきを開催し、誘客促進に努めた。

このほか、本センターが所有する施設や機材等を活用し、おもしろ自転車レース、自転車の国の大運動会、自転車倉庫祭等を開催し、来場者増を図った。

（3）収益的な施設の貸与

可能な限り一般営業や自転車合宿との調整を図り、サーキットコース等で収益性の高い商業撮影やモーターイベントを受入れるなど、収益の増大を目的とした施設の貸与事業も行った。

［撮影・イベント］
件　数：9件
収　入：4,018千円

（4）広報及び誘致活動

前年度にリニューアルした本センター公式ホームページを活用し、自転車の国に関する様々な情報を提供するとともに、ツイッターやインスタグラムなどのSNSにより、自転車競技大会・イベント・季節毎の見所・各施設の営業状況等の情報をいち早く発信した。特に、拡散力の高いツイッターについては、ほぼ毎日情報を発信するよう心掛けた。併せて、イベントの開催時には、テレビCM・新聞・チラシ等により広告宣伝を実

施した。

パブリシティに関しては、地元のメディアに対し積極的に情報をリリースし、イベントや各種主催大会、アジアサイクリングセンター国内トレーニングキャンプの様子等を様々な媒体で紹介いただいた。

このほか、3 年間のブランクを払拭するため、首都圏に対しては送客実績のある旅行代理店を中心にセールス活動を展開し、地元に対しては伊豆半島一円の宿泊施設へ改めて施設案内を行うなどして、誘客促進を図った。

なお、詳細は（別表 6）広報宣伝活動内容一覧のとおりである。

（5）休園日週 2 日制の導入

コロナ禍での来場者の動向を見据え、また、少数精鋭での運営体制を確立するため、従来の木曜日に加え、水曜日も休園日とする休園日週 2 日制を導入した。

なお、休園日については、祝日や繁忙期間のほか、一定数以上の団体予約が入った場合は営業するなど、入場者の減少を最小限に止める方策を講じている。

6．飲食等付随するサービス事業

飲食提供事業については、顧客満足度の向上を念頭に置き、「いとう漁協のサバ・イカのすり身」や「三島コロッケ」、「あしたか牛のメンチカツ」、「土肥塩おにぎり」など地元食材を取り入れた魅力ある食事メニューを提供するとともに、「桜うどん」、「焼いも」、「おでん」等季節に応じたメニューも販売した。

7．顧客の呼び戻し（営業休止前の入場者数）

令和元年 5 月以来、約 3 年の休業期間を経ての営業再開となることから、積極的な PR 及び販売促進活動を展開するとともに、利用実績のある自転車競技団体及びクラブ等に対し大会及び合宿利用の案内を行い、利用促進に努めたものの、厳しい社会情勢や 3 年間のブランクは如何ともし難く、他施設に流出した一般客や団体客を以前の水準まで呼び戻すには至らなかった。

8．オリンピック・パラリンピックレガシーの活用（自主大会の開催、地元行政と連携した自転車競技の振興ほか）

オリンピック・パラリンピックレガシーの活用を念頭に置き、自主大会を積極的に開催するとともに、地元行政と連携し、自転車競技の振興を図るための記念大会やイベントを実施した。

自主大会としては、伊豆ベロドロームにおいて、JKA の補助事業である「CSC トラック自転車競技大会 2022KID’S～マスターズ」を 7 月に企画するとともに、「2022Challenge The Izu Velodrome」を年間 3 回開催し、愛好者が気軽にトラック競技を楽しめる場を提供した。

記念大会・イベントとしては、地元行政が主催する「2022 ジャパン・マウンテンバイ

ク・カップ in 伊豆 MTB コース」や「1 周年レガシーイベント」、「自転車と健康プログラム」、「自転車交通安全講習会」等の受入れを行い、その開催に最大限協力した。

なお、「自転車トレーニングヴィレッジ構想」については、静岡県の主導により、その前段となる「スポーツコミッション」の立上げは行ったものの、具体的な検討には至らなかった。

9．その他

（1）地域行政等との連携

ア．伊豆市事業への協力

“伊豆をサイクルスポーツ・サイクルレジャーのメッカに！”を合言葉に、伊豆市と自転車関係団体とが「自転車と伊豆」推進協議会を組織し、そのメンバーとして伊豆市の活性化に向けた取り組みに協力した。

また、伊豆市が主催するオリンピック・パラリンピックレガシー活用事業「伊豆ベロドローム施設見学及び試乗体験会」、「伊豆 MTB コースウォーク及び試乗体験会」や、こども園等の園児を対象にした「ストライダー出前教室」を始め、地元市民の自転車競技に対する熱をより一層高めるよう、自転車普及イベントへの協力も行った。

一方、オリンピック・パラリンピックレガシーの活用推進を図るため、伊豆市に対し本センターへの「地域おこし協力隊」配置を要請し、令和 5 年度からの活動開始が内定した。

イ．静岡県事業への協力

静岡県が主催する「静岡県サイクルスポーツの聖地創造会議」、「静岡サイクルスポーツコミッション推進協議会」、「ジャパン・マウンテンバイク・カップ実行委員会」等へ参画したほか、地域経済の発展を目的に、地元企業と行政とが組織する「静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会（通称：E-spo）」のメンバーとしても、スポーツと宿泊・観光を組み合わせた新しいサービスや商品の開発等に関する検討に加わった。

また、伊豆 MTB コースの活用及び MTB 競技の普及並びに静岡県民へのスポーツの場の提供を目的とした静岡県との協定に基づき、自転車競技大会の受入れや県民に対する入場割引等タイアップ事業を展開した。

ウ．ふじのくにサイクルスポーツコミッションとの連携

静岡県の主導で立ち上げた「ふじのくにサイクルスポーツコミッション」と連携し、各種自転車競技大会の誘致、本センターでの自転車トレーニングとワーケーションをセットにした実証実験、伊豆 MTB コースを活用した自転車スキルアップ講習会等、スポーツコミッション機能の構築に向けた検討を行った。

（2）職員研修及び各種資格取得の奨励・支援

職員研修の一環として、今後の事業運営に必要な新規施設の導入に向け、関連施設の

視察を実施した。

また、各種資格の取得を積極的に奨励し、本年度においては、日本スポーツ協会公認自転車競技コーチ 3 の資格を 1 名、日本自転車競技連盟 3 級公認審判員の資格を 1 名が取得した。

なお、詳細は（別表 7）職員研修内容一覧のとおりである。

（3）その他

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の受入れに伴う休業期間中、運行休止となっていた路線バスについては、管轄行政である伊豆市を交えてバス会社と交渉を行った結果、令和 4 年 9 月 17 日から、学校休校日に朝 1 本、夕方 1 本の一日 2 本、伊豆市の自主運行区間を延長し、本センターまでの運行を行うこととなった。

また、これまで入場ゲートでのチケット購入は現金での支払いのみであったが、来場者のニーズに合わせ、多様化する決済方法への対応として、一部オンライン決済を導入した。

このほか、理事会・評議員会を始めとする諸会議の開催、ＯＡ機器のシステム管理、車両の運行管理、地震・消防総合訓練などの業務を必要に応じて行った。

なお、詳細は（別表 8）諸会議開催内容一覧のとおりである。

（ 別表 1－1 ） 令和4(2022)年度 月別入場者

［単 位 : 人］

区 分	平成30(2018)年度					令和4(2022)年度					一般有料入場者 増減	
	総入場者	割 合	一般有料入場者	割 合	営業日数	総入場者	割 合	一般有料入場者	割 合	営業日数	人 数	前年比
4 月	16,747	14.9%	15,657	15.7%	27日	11,754	10.4%	11,314	11.4%	22日	△ 4,343	72.3%
5 月	21,379	19.0%	17,942	18.0%	27日	19,609	17.4%	19,006	19.1%	25日	1,064	105.9%
6 月	6,160	5.5%	4,580	4.6%	22日	6,654	5.9%	6,284	6.3%	20日	1,704	137.2%
7 月	11,533	10.3%	7,457	7.5%	28日	6,689	0.1%	5,829	0.1%	27日	△ 1,628	78.2%
8 月	30,025	26.7%	25,792	25.9%	31日	11,941	10.6%	11,366	11.4%	31日	△ 14,426	44.1%
9 月	7,872	7.0%	6,535	6.6%	26日	3,776	3.4%	3,376	3.4%	21日	△ 3,159	51.7%
10 月	10,455	9.3%	9,008	9.0%	27日	9,638	8.6%	7,390	7.5%	23日	△ 1,618	82.0%
11 月	8,538	7.6%	7,459	7.5%	25日	7,702	6.8%	6,214	6.2%	23日	△ 1,245	83.3%
12 月	8,127	7.2%	7,218	7.2%	24日	8,387	7.5%	6,949	7.0%	21日	△ 269	96.3%
1 月	9,415	8.4%	8,666	8.7%	27日	9,211	8.2%	7,965	8.0%	25日	△ 701	91.9%
2 月	5,286	4.7%	4,460	4.5%	20日	5,467	4.9%	4,263	4.3%	18日	△ 197	95.6%
3 月	14,732	13.1%	13,362	13.4%	29日	11,665	10.4%	9,722	9.8%	25日	△ 3,640	72.8%
合 計	150,269	133.7%	128,136	128.6%	313日	112,493	94.2%	99,678	94.5%	281日	△ 28,458	77.8%

※営業日数は一般営業日の日数とする。

※令和1(2019)年度から令和3(2021)年度までは、オリンピック・パラリンピック競技大会開催のため、一部施設を除き営業を休止していたことから、平成30(2018)年度との比較とする。

※令和4(2022)年度
・ 令和4年4月より、従来の木曜日に加え、水曜日も休園日とする休園日週2日制を導入（祝日及び繁忙期間を除く）

（別表1－2） 令和4(2022)年度 入場者内訳

［単位：人］

区分				平成30年度		令和4(2022)年度		増減	
				人数	割合	人数	割合	人数	前年比
有料入場者	入場券	個人	おとな	14,893	11.6%	16,265	16.3%	1,372	109.2%
			こども	3,626	2.8%	3,640	3.7%	14	100.4%
		団体	おとな	26,220	20.5%	7,372	7.4%	△ 18,848	28.1%
			こども	6,196	4.8%	1,186	1.2%	△ 5,010	19.1%
		計		50,935	39.7%	28,463	28.5%	△ 22,472	55.9%
	とくパス	個人	おとな	4,744	3.7%	16,643	16.7%	11,899	350.8%
			こども	4,195	3.3%	14,234	14.3%	10,039	339.3%
		団体	おとな	24,442	19.1%	18,000	18.1%	△ 6,442	73.6%
			こども	21,101	16.5%	13,942	14.0%	△ 7,159	66.1%
		計		54,482	42.6%	62,819	63.0%	8,337	115.3%
	セット券	こども会	おとな	6	0.01%	0	0.0%	△ 6	0.0%
			こども	20	0.02%	0	0.0%	△ 20	0.0%
		スクール	おとな	1,190	0.9%	88	0.1%	△ 1,102	7.4%
			こども	262	0.2%	58	0.1%	△ 204	22.1%
		特別	おとな	3,171	2.5%	1,021	1.0%	△ 2,150	32.2%
			こども	1,796	1.4%	320	0.3%	△ 1,476	17.8%
		身障者		69	0.1%	0	0.0%	△ 69	0.0%
		計		6,514	5.1%	1,487	1.5%	△ 5,027	22.8%
	大会・合宿等			12,597	9.8%	4,944	5.0%	△ 7,653	39.2%
	パターゴルフコース利用者			3,608	2.8%	1,965	2.0%	△ 1,643	54.5%
	一般有料入場者計			128,136	100.0%	99,678	100.0%	△ 28,458	77.8%
	その他有料入場者			14,024	9.9%	5,401	5.1%	△ 8,623	38.5%
	有料入場者合計			142,160	100.0%	105,079	100.0%	△ 37,081	73.9%
無料入場者				8,109	5.4%	7,414	6.6%	△ 695	91.4%
入場者総合計				150,269	100.0%	112,493	100.0%	△ 37,776	74.9%
営業日数（日）				313		281		△ 32	89.8%
営業日における雨天日数（日）				69	22.0%	79	28.1%	10	114.5%

（別表 1－3） 令和4(2022)年度 施設利用者内訳

区　　分	平成30年度		令和4(2022)年度		増　減	
	人 数	利用率	人 数	利用率	人 数	前年比
5キロサーキット	10,993	9.9%	6,246	6.4%	△ 4,747	56.8%
ファミリーサーキット	59,897	53.6%	54,125	55.4%	△ 5,772	90.4%
伊豆MTBコース	6,045	5.5%	5,035	5.1%	△ 1,010	83.3%
伊豆ベロドローム	19	0.1%	0	0.0%	△ 19	0.0%
サイクルコースター	89,667	80.2%	94,605	96.8%	4,938	105.5%
おもしろ自転車	94,578	84.5%	90,391	92.5%	△ 4,187	95.6%
サイクルゴーランド	56,629	50.6%	59,149	60.5%	2,520	104.5%
サイクルモノレール	49,405	44.2%	53,006	54.2%	3,601	107.3%
水上自転車	46,708	41.8%	46,970	48.0%	262	100.6%
スカイローラー	86,253	77.1%	82,829	84.7%	△ 3,424	96.0%
サイクル立体迷路（アスレチック迷路）	37,771	33.8%	73,525	75.2%	35,754	194.7%
室内フットサル場	7,182	6.5%	1,461	1.5%	△ 5,721	20.3%
ウエイトトレーニング場	52	0.1%	10	0.01%	△ 42	19.2%
パターゴルフコース	4,649	4.2%	3,321	3.4%	△ 1,328	71.4%
バッテリーカー	3,734	3.4%	492	0.5%	△ 3,242	13.2%
DAYキャンプ場 元気の森	2,461	2.2%	283	0.3%	△ 2,178	11.5%
ふわふわドーム	19,228	17.2%	55,616	56.9%	36,388	289.2%
ジャングルジム FUJISAN	32,385	29.0%	34,323	35.1%	1,938	106.0%
その他の施設	64,938	58.1%	－	－	－	—
合　　計	672,594	600.9%	661,387	676.5%	11,207	98.3%

※令和1(2019)年度から令和3(2021)年度までは、オリンピック・パラリンピック競技大会開催のため、一部施設を除き休止していたことから、平成30(2018)年度との比較とする。

※その他の施設:STRIDER Park、サイクルUFO、流水プール、体育館、ウォーターバルーン

※利用率は、一般来場者数(令和1年度:111,931人、令和4年度:97,769人)を基に算出

（別表２）自転車競技大会一覧

開催月		主な大会	主催団体	参加選手
主催	5月	CSCクリテリウムシリーズ 第1戦	日本サイクルスポーツセンター	47 人
	6月	Challenge The Izu Velodrome 第1戦	日本サイクルスポーツセンター	74 人
	6月	CSCクリテリウムシリーズ 第2戦	日本サイクルスポーツセンター	63 人
	7月	CSCトラック自転車競技大会2022（KID'S～マスターズ）	日本サイクルスポーツセンター	53 人
	9月	Challenge The Izu Velodrome 第2戦	日本サイクルスポーツセンター	50 人
	9月	CSCクリテリウムシリーズ 第4戦	日本サイクルスポーツセンター	78 人
	10月	第22回CSC5時間耐久チームサイクルロードレース大会	日本サイクルスポーツセンター	96 人
	10月	CSCクリテリウムシリーズ 第5戦	日本サイクルスポーツセンター	38 人
	11月	CSCクリテリウムシリーズ 第6戦	日本サイクルスポーツセンター	59 人
	11月	Challenge The Izu Velodrome 第3戦	日本サイクルスポーツセンター	90 人
	12月	CSCクリテリウムシリーズ 第7戦	日本サイクルスポーツセンター	70 人
	1月	CSCクリテリウムシリーズ 第8戦	日本サイクルスポーツセンター	43 人
	3月	CSCクリテリウムシリーズ 第9戦	日本サイクルスポーツセンター	73 人
協力	4月	第45回チャレンジサイクルロードレース大会	日本自転車競技連盟	447 人
	4月	令和4年度　東京都高等学校総合体育大会自転車競技ロード競技	東京都高等学校体育連盟自転車競技専門部	68 人
	4月	令和4年度　神奈川県高等学校総合体育大会自転車競技ロード競技	神奈川県高等学校体育連盟自転車競技専門部	20 人
	5月	令和4年度　静岡県高等学校総合体育大会自転車競技ロード競技	静岡県高等学校体育連盟自転車競技専門部	35 人
	5月	2022 Jシリーズトライアル #01 静岡大会	日本自転車トライアル協会	59 人
	6月	第56回　JBCF東日本ロードクラッシック　修善寺大会	全日本実業団自転車競技連盟	795 人
	7月	第62回全日本学生選手権トラック自転車競技大会2022	日本学生自転車競技連盟	336 人
	7月	2022 JAPAN TRACK CUP　I・Ⅱ	日本自転車競技連盟	276 人
	8月	令和4年度　全国高等学校定時制通信制体育大会自転車競技	全国高等学校体育連盟定時制通信制自転車競技専門部	51 人
	8月	第91回全日本自転車競技選手権大会（トラック-エリート・ジュニア、パラサイクリング）	日本自転車競技連盟	245 人
	10月	令和4年度静岡県高等学校新人大会自転車競技ロード大会	静岡県高等学校体育連盟自転車競技専門部	20 人
	10月	2022 JAPAN MOUNTAIN BIKE CUP	ジャパン・マウンテンバイク・カップ実行委員会	65 人
	11月	令和4年度神奈川県高等学校新人大会自転車競技ロード大会	神奈川県高等学校体育連盟自転車競技専門部	24 人
	11月	サーキットロード in CSC	ウォークライド	42 人
	11月	2022全日本選手権大会自転車競技大会ーMTB（XCO）	日本自転車競技連盟	209 人
	11月	令和4年度東京都高等学校新人大会自転車競技ロード大会	東京都高等学校体育連盟自転車競技専門部	59 人
	1月	チャレンジ＆エンジョイ　ジュニアトラックin伊豆ベロドローム	静岡県自転車競技連盟	71 人
	1月	2023東京都ウインターロードレース大会第1戦	東京都自転車競技連盟	44 人
	2月	2023東京都ウインターロードレース大会第2戦	東京都自転車競技連盟	84 人
	2月	YOU CAN MTB DAYS	ユーキャン	30 人

＜主催大会＞

13大会：834人参加（5キロサーキット、伊豆ベロドローム）

※ CSCクリテリウムシリーズの第3戦（7月）は、雨天のため中止。

※前年度実績0大会：0人（オリンピック・パラリンピック会場整備のため）

＜協力大会＞

19大会：2,980人参加（5キロサーキット、伊豆ベロドローム、伊豆MTBコース、400メートルピスト）

※前年度実績5大会：553人

（別 表 3） 自転車スクール及び競技指導内容一覧

区　　名	内　　容	参 加人数
小学生のための 自転車教室	自転車に乗れない小学生を対象にした日帰りの教室 4回開催（第113回 :7月 ～ 第116回 :2月 ）	61人
女性のための 自転車教室	自転車に乗れない女性を対象にした1泊2日の教室 4回開催（第320回 :6月 ～ 第324回 :3月 ）	31人
MTBスクール	MTBヤングキャンプ 1回開催（12月 ） 参加者10名	10人
自転車競技者に対する 指導業務	静岡県自転車競技連盟強化事業への協力 ・国体強化事業における指導 2回開催（9月 ） 選手8名、指導者2名 ・女子アスリートキャンプにおける指導 1回開催（12月 ） 選手13名、指導者2名 山梨県自転車競技連盟強化事業への協力 ・公認コーチ1（自転車競技）養成講習会における指導 1回開催（12月 ） 受講者14名	49人

（別表４）イベント開催内容一覧

イベント名		開催日	主な内容		
自転車普及イベント	ゴールデンウィークイベント	令和4年4月29日（金）～同5月8日（日）	こどもの日 お菓子詰め合わせプレゼント	1日	1,500人
			こども遊び広場	10日	
	一輪車競技大会～共催～	令和4年7月3日（日）	第17回CSC3時間耐久一輪車レース大会（チーム対抗）	1日	189人
		令和5年1月8日（日）	第30回新春静岡県一輪車競技大会（5kmマラソン）	1日	132人
		令和5年2月5日（日）	第8回静岡オープン駅伝大会（チーム対抗）	1日	167人
	夏休みイベント	令和4年7月30日（土）～同 8月31日（水）	水遊び広場	31日	3,478人
			夜間営業花火大会	2日	150人
	ハロウィンイベント	令和4年10月8日（土）～同10月30日（日）	園内に隠されたゴースト探索	17日	1,000人
	自転車イベント	令和4年10月8日（土）～令和5年3月19日（日）	おもしろ自転車レース	11日	279人
			自転車の国大倉庫祭	1日	
	秋のサイクルカーニバル	令和4年11月3日（木）～同11月6日（日）	大道芸　2種	1日	145人
			お笑いライブ	1日	700人
			健康増進イベント（200mタイムアタック、カロチャレ）	1日	700人
	冬季週末イベント	令和4年12月24日（土）～令和5年3月26日（日）	立体迷路イベント探索イベント	9日	256人
			マシュマロ焼きイベント	21日	1,193人
	クリスマスイベント	令和4年12月17日（土）～同12月25日（日）	園内に隠されたクリスマスアイテム探索	7日	600人
	新春サイクルカーニバル	令和5年1月1日（日）～同 1月3日（火）	新春開運餅まき大会、運ためし抽選会	3日	1,200人
			健康増進イベント（200mタイムアタック、カロチャレ）	2日	376人
	春のサイクルカーニバル	令和5年3月25日（土）～同 3月26日（日）	お笑いライブ	2日	135人

（別 表 5 ）自転車競技体験プログラム一覧

開 催 日	主 な 内 容		
令和4年4月1日（金） ～令和5年3月31日（金）	みしまジュニアスポーツアカデミーへの協力 ① みしまジュニアスポーツアカデミー7期生 ・伊豆ベロドロームでのトラック競技体験プログラム（3回）	3日	57人
令和4年6月24日（金） ～令和5年2月21日（火）	伊豆市機運醸成事業「ランニングバイク出前教室」 伊豆市内各こども園及び保育園（4か所）	7日	130人
令和4年6月27日（月） ～令和5年2月20日（月）	競技用自転車を利用した他スポーツ実施者へのクロストレーニング トヨタ自動車スケート部（ショートトラック） 東京都トライアスロン連合選抜選手	9日	55人
令和4年7月24日（日） ～令和5年2月23日（木）	伊豆ベロドローム施設見学会及び試乗体験会 伊豆市民	8日	71人
令和4年8月9日（火） ～令和5年2月4日（土）	伊豆マウンテンバイクコースウォーク及び試乗体験会 伊豆市民	5日	61人
令和4年9月20日（火） ～令和4年11月2日（水）	静岡県立伊豆総合高等学校ライフスポーツ授業 選択希望者：2年生　5人（実習回数 6回） 選択希望者：3年生　8人（実習回数 6回） （北400mピスト他でのトラック競技実習）	12日	78人
令和4年12月17日（土） 令和5年2月28日（火）	伊豆市自転車と健康プログラム 伊豆・伊豆の国・伊東市民　18人 ・ワットバイクによる推定最大酸素摂取量（ Vo2Max ）測定他	8日	144人
令和5年3月18日（土 ） ～令和5年3月31日（金）	みしまジュニアスポーツアカデミーへの協力 ② みしまジュニアスポーツアカデミー第8期生 ・伊豆ベロドロームでのトラック競技体験プログラム（4回） （令和5年4月に競技体験プログラムを2回実施32人）	4日	57人

（別表６） 広報宣伝活動内容一覧

媒体名			内容		
広告	テレビ		静岡第一テレビ　15秒スポット	1局	45本
	新聞		静岡新聞、伊豆新聞、伊豆日日新聞、熱海新聞 他	5紙	6回
	雑誌		フリーペーパー「伊豆時間vol.14」	1誌	1回
	車内吊		伊豆箱根鉄道・駿豆線　B3ポスター 48枚		4週間
	看板		伊豆箱根鉄道・駿豆線（修善寺駅構内看板）	1基	12ヵ月
			伊東マリンタウン（観光案内看板）	1基	12ヵ月
			伊豆ぐらんぱる公園旅の駅（観光案内看板）	1基	12ヵ月
	インターネット		いこーよ（子供とおでかけ情報サイト）		1回
			ママとね SNS広告		1回
	その他		ハッピークーポン	2件	2回
パブリシティ	自転車競技関係	ラジオ	FM伊豆、ボイスキュー	2局	24回
		新聞	静岡新聞、伊豆日日新聞、スポーツニッポン、報知新聞 他	8紙	40回
		インターネット	More CADENCE、けいりんマルシェ 他	4媒体	4回
	施設紹介・イベント	テレビ	フジテレビ、テレビ朝日、テレビ静岡、静岡第一テレビ 他	6局	9回
		ラジオ	FM伊豆	1局	1回
		新聞	読売新聞、静岡新聞、伊豆日日新聞、スポニチ	4紙	8回
		雑誌	まっぷる伊豆箱根、伊豆長岡おもしろ情報	2誌	2回

（別表７）職員研修内容一覧

研修名		回数	参加者
資質向上研修	簡易プール導入に伴う関連施設視察（9月）	1回	運営課長、広報・おもしろエリア担当長（2名）
	新規施設導入に伴う関連施設の視察（1月・2月）	2回	常務理事、事務局長、総務部次長（3名）
一般研修会・講習会	安全運転管理者等講習会（9月）	1回	総務部次長（1名）
	日本スポーツ協会公認自転車競技コーチ3（10月・2月）	1回	競技振興課競技担当者（1名）
	日本トレーニング指導者協会指導者講習会（1月）	1回	事業部次長（1名）
	日本自転車競技連盟3級公認審判員養成講習会（3月）	1回	競技振興課競技担当者（1名）
講師派遣	みしまジュニアスポーツアカデミー ・自転車競技体験（4・3月）	6回	事業部次長、競技振興課競技担当者（計2名）
	静岡県自転車競技連盟令和4年度指導者実地研修会（9月）	1回	事業部次長（1名）
	静岡県自転車競技連盟第1回・第2回国体強化合宿（9月）	1回	（第1回）事業部次長（1名） （第2回）事業部次長、競技振興課競技担当者（計2名）
	（公財）JKA主催「トラックサイクリングキャンプ in 立川」（9月）	1回	事業部次長、競技振興課競技担当者（2名）
	（公財）JKA日本競輪選手養成所講義 「東京オリンピック会場である伊豆ベロドロームの補助金の活用について」（10月）	1回	総務部長（1名）
	立川市主催令和4年度子供のための自転車教室（11月）	1回	総務部次長、運営課広報担当長（2名）
	静岡県自転車競技連盟女子アスリート強化事業 「ジュニアトレーニングキャンプ」（12月）	1回	事業部次長、競技振興課競技担当者（計2名）
各種訓練	地震・消防総合訓練（6月、1月）	2回	職員・保守管理業者（6月34名、1月32名）

（別表８） 諸会議開催内容一覧

会議名	開　　催　　内　　容
理事会	**第35回理事会 （令和4年6月6日）** （議案第1号）令和3(2021)年度事業報告について （議案第2号）令和3(2021)年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び同附属明細書並びに財産目録について （議案第3号）令和3年度公益目的支出計画実施報告について （議案第4号）第26回評議員会への提案について （職務執行報告） 今期の有料入場者の推移について オリンピック・パラリンピック後の営業再開からGW終了時点までの一般有料入場者比較 来場者動向調査の結果について
	第36回理事会 （令和4年6月30日） （議案第1号）会長及び常務理事の選定について （議案第2号）役員報酬の支給額について （職務執行報告） 今期の有料入場者の推移について
	第37回理事会 （令和5年3月15日） （議案第1号）令和5(2023)年度事業計画について （議案第2号）令和5(2023)年度収支予算について （議案第3号）「役員賠償責任保険」への加入について （議案第4号）第27回評議員会の招集について （職務執行報告） 新規施設導入に関する進捗状況について 今期の有料入場者の推移について
評議員会	**第26回評議員会 （令和4年6月30日）** （議案第1号）令和3(2021)年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び同附属明細書並びに財産目録について （議案第2号）次期役員の選任について （報告事項1）令和3(2021)年度事業報告について （報告事項2）令和3年度公益目的支出計画実施報告について
	第27回評議員会 （令和5年3月30日） （報告事項1）令和5(2023)年度事業計画について （報告事項2）令和5(2023)年度収支予算について
常勤役員会	**第1回常勤役員会 （令和4年5月24日）** （議案第1号）令和3(2021)年度事業報告について （議案第2号）令和3(2021)年度決算報告について
	第2回常勤役員会 （令和4年7月19日） （議案第1号）令和5年度JKA補助要望について
	第3回常勤役員会 （令和4年8月22日） （議案第1号）令和5年度JKA補助要望について （議案第2号）今後の誘客促進活動について
	第4回常勤役員会 （令和4年9月14日） （議案第1号）令和5年度JKA補助要望について
	第5回常勤役員会 （令和5年1月23日） （議案第1号）令和5年度事業計画並びに収支予算の骨子について （議案第1号）令和5年度営業計画について
	第6回常勤役員会 （令和5年2月24日） （議案第1号）令和5年度事業計画について （議案第2号）令和5年度収支予算について （議案第3号）令和5年度勤務計画について
	第7回常勤役員会 （令和5年3月6日） （議案第1号）令和5(2023)年度事業計画について （議案第2号）令和5(2023)年度収支予算について

その他	役職員懇談会	（　5回開催：令和4年4月～令和4年12月）
	管理職会議	（　6回開催：令和4年4月～令和5年2月）
	営業施設の安全対策委員会	（　9回開催：令和4年5月～令和5年3月）
	防火管理委員会	（　2回開催：令和4年5月、令和5年1月）
	労務運営委員会	（　1回開催：令和5年3月）
	公益財団法人JKA伊豆事業所との定例連絡会	（12回開催：令和4年4月～令和5年3月）